

# 「子どもの貧困」の授業のつくり方

地歴公民科 熊田 亘

## I 「子どもの貧困」にたどりつくまで

12月初旬の研究大会で授業を公開する年は、数ヶ月前からぼつぼつ準備にかかる。

今年度はその年だったので、春先から何の授業をしようかと考えていた。そして、社会科分科会のテーマが「公共」をめぐるものになることとの関連もあり、9月までは、財政について、井手英策の『分断社会』批判と「普遍主義的な社会保障政策」を中心に授業を組み立てようと思っていた。

ところが、いざ授業をつくろうとすると、いい教材が見つからない。むろん、「大きな政府か、小さな政府か」、あるいは、広井良典が提示している「(公助を原理とする) 普遍主義モデル・(共助を原理とする) 社会保険モデル・(自助を原理とする) 市場型モデル」という3つのモデルの比較など、日本社会のグランドデザインを考えるような授業も可能なのだろうが、抽象度が高すぎて授業になりにくそうだ。授業づくりを料理にたとえるならば、フランス料理と決めたのだが、個々のメニューが決まらないような状況である。

そんなことを考えながら、井出英策らの鼎談集を読んでいたら、井手の提起を受けて前原誠司が次のように話していた。

「就学前教育は無償……大学も基本的に無償化する。こんなことは二・七兆円、消費税一％ぐらいの税収でできる。」<sup>\*1</sup>

「介護士の給与は安いです……これを例えば、四、五万円上げるとなると、かなりいい線までいくんです……それでも五〇〇億円ぐらいでしょう。」<sup>\*2</sup>

さすがに政治家の議論は具体的である。このぐらいのレベルの教材の方が、抽象的な原理論より良いのではないか。例えば「消費税を10%にすると何ができるのか」等々。そんな方向性を考え始めた。

一方、勤務校で最初に担任をした卒業生が6月にちょうど出産し、その直後に会った時「保活」の話題が出たりして、2016年2月の「保育園落ちた、日本死ね！」以来の待機児童問題や子育て支援が気になっていた。また、秋口にたまたま高校家庭科の教師用指導書の「社会保障」の部分を書くことになり、そこでは「子どもの貧困」に少し触れたりもした。さらに『徹底調査 子供の貧困が日本を滅ぼす』を読み、「子どもの貧困をジブンゴト(つまり社会全体の問題)として捉える」という視点に惹かれたりもあって、次第に、

---

\*1 佐藤優・前原誠司・井手英策『分断社会ニッポン』朝日新聞出版(2016) p.95

\*2 同書 p.109

「子どもの貧困」と社会政策をメニューにしようという考えが固まってきた。<sup>\*3</sup>

メニューが決まれば材料集めである。過去何年かに読んだ貧困関係の本の再読も含め、文献を読んでいく。

そうして読んでいった「子どもの貧困」関係の文献の中から、阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』を軸に授業を組み立てることに決めた。これまた料理にたとえれば「メインディッシュはステーキ」と決めたようなものである。同書を軸としたのは、それが、子どもの貧困の現状把握→原因の分析→対策の検討→提言という流れで書かれており明晰かつ説得的であったこと、また「子どもの貧困」という具体的な問題をあつかいつつも、社会政策一般についての解説を行っており、私の指向／嗜好にあっていたことによる。

授業の大枠を『子どもの貧困Ⅱ』に依拠しつつ、他の文献等から肉付けをし（オードブルやスープを用意する）、授業の形に落とし込む（調理する）作業を始める。

## Ⅱ 「子どもの貧困」の授業をすることの意味

「子どもの貧困」が、今の日本社会で解決を迫られる重要な問題のひとつとなっていること、それゆえ「政経」の授業で取りあげることに意味があることは論を待たないだろうが、そうした一般論とは別に、勤務校で「子どもの貧困」の授業をする意味を一少し回り道になるが一書しておく。

「子どもの貧困」を測る「剥奪指数」に「子ども用の本」「勉強する場所」という項目があるのを見て、約30年前のことを思い出した。クラス担任として初めて、「悪さ」をして自宅謹慎となった生徒の家庭訪問に出かけた時のことである。

通された家は2Kぐらいの間取りだったろう、家の中のほぼすべてが見えた。片方の和室の卓袱台の前で私とその生徒の「反省状況」を確認し説教をしている間、続きの部屋ではテレビの音が響きっぱなしだった（誰かが見ていたのだろうと思うが、記憶が定かでない）。

部屋の狭さにも、教員が家庭訪問に来てもテレビを消さないということにも驚いたのだが、もっと驚いたのは、その家に本棚が無かったことである。

自分の家はむろん、遊びに行った友達の家にも本棚がない（ということは本も無い）という経験が私には無かった。私は典型的なアッパー・ミドルの家庭の出身で、長らく公務員宿舎住まいだったから、友人も同じような階層の子が多かった。高校・大学の環境も似たり寄ったりで、そのまま教員になり上記の出来事に遭遇したわけである。

知らないということは恐ろしい。今では、当時の私がいかに狭い世界しか知らなかったかということがよく分かる。

---

\*3 同時期に、乃木坂46の橋本奈々未が卒業宣言し、その後のTV番組で自らの「貧乏話」を語ったことも「子どもの貧困」に引きつけられる理由となった。

そして、勤務校の生徒の多くも、かつての私と同じように狭い世界で生きているように私には見える。

勤務校で、就学支援金を受けとっている家庭は約4分の1であり、そこから、総じて保護者の所得が高いことが推しはかれる。『授業ノート』の自己紹介を読むと、ほとんどの生徒が小さい時から、塾に加えて、楽器やスポーツやバレエ等の稽古事（それも数種類の）を経験している。海外旅行や短期留学の経験がある生徒も多い。

そういう点ではたいへん豊かな経験をしているのだが、他方、人間関係は広くなく、特に自分と異なる階層の子どもとの接点は乏しいように思われる。「子どもの貧困」と言われて途上国のストリート・チルドレンを想起する生徒はいても、国内の貧しい子どもを思い浮かべる生徒は少ないのではないか。

そういう点で、勤務校の生徒の狭い世界を、（知識の上だけでも）少し広げたいという思いが、「子どもの貧困」を授業で取りあげようと思った背景にある。

### Ⅲ 「子どもの貧困」の授業をするにあたっての2つの心配と、それへの対応

「子どもの貧困」の授業をするにあたって2つ心配があった。

第一は、数は多くないにしても、勤務校の生徒の中にも存在するだろう、貧困状況にある家庭の生徒が、この授業をどう受けとめるかということである。この授業を行うことで、そういう生徒が傷つくようなことは避けなければならない。

私が考えた対応は、「告発型」の授業にしないということだった。「告発型」の授業とは何か。例えば、差別を取りあげた授業で、差別の悲惨な実態や、それがもたらす悲劇などの事例を事細かに紹介して、生徒の感性に迫っていくタイプの授業である。

「子どもの貧困」についても、深刻な、絶対的貧困に近い状況に置かれた子どもの事例の紹介から出発するということも考えた。恐らく、その方が、生徒の感情を強く揺さぶり、問題意識をかきたて、「子どもの貧困を解消しなくては！」という気持ちにはさせやすいだろう。

だが、そういう事例を、同じく貧困状況にある家庭の生徒がどう受けとめるだろうかと考えると不安がある。

そこで少なくとも今回は、個別の事例は紹介せずに、量的なデータのみを使って授業を組み立てようとした。『読売新聞』の「子どもの貧困」に関する記事の見出しを並べた「子どもの貧困の様々な様相」というスライドもつくったが、授業では一瞬見せるにとどめ、記事そのものを読ませることもしなかった。

このように注意を払ったつもりではあったのだが、例年「政経」の授業終了後に行っている授業評価アンケートの自由記述欄に次のように書いてきた生徒がいた。

「これは私が考えすぎなところもあるけれど、貧困層の子どもをどう救済するか話し

合ったとき私の家が母子家庭なのでそのことについて話し合うのは居心地が悪かった。」


授業中、「居心地の悪さ」を感じさせてしまったこの生徒には申し訳ないことをしたと思う。と同時に、高校生を対象に「子どもの貧困」の授業をする場合に、あるいはより一般的に、教室に当事者がいる問題を授業で扱う（例えば、保護者が東京電力に勤めている生徒がいるクラスで福島原発を取りあげる）場合に、どういう配慮が可能かは考え続けなければならないと思う。

第二の心配は、逆に、多数を占めるだろうと思われる貧困と無縁の生徒が、この授業を正面から受けとめられるか、無関心であったり、「子どもの貧困はやむを得ないもので、解決すべき問題ではない」と考えたりしないようにするにはどうしたらよいかということである。

これについては、「子どもの貧困」を、子どもの人権の問題としてと同時に、社会全体に関わる問題として扱うという、『徹底調査 子供の貧困が日本を滅ぼす』<sup>\*4</sup>のアプローチを借りることにした。

#### IV ライブ「子どもの貧困」

以下、授業「子どもの貧困」の記録である。<sup>\*5</sup>

なお、Power Pointのスライド<sup>\*6</sup>のタイトルは [ ] で、スライドの内容は  で、教員の発言は『 』で、生徒の発言は「 」で示してある。

最後に「子どもの貧困対策」を生徒が考える時間があるが、おおむね講義である。<sup>\*7\*</sup>

---

\*4 日本財団子どもの貧困対策チーム『徹底調査 子供の貧困が日本を滅ぼす』文藝春秋(2016)

\*5 本校第66回研究大会(2016年12月3日)での公開授業(対象:3年3組)の録画を元に、一部省略したり、表現を改めたりしている。

\*6 資料1

\*7 講義は聴いてもらえばよいと考えていたが、メモをとるためのプリントを配布した。資料2は、そのうち、丁寧にメモをとっていた生徒のものである。

\*8 昨今の「アクティブ・ラーニング」ブームに棹さすつもりはないが、授業中、生徒が活動的な学びをすることは重視してきた。本授業についても構想段階では

- 1 そもそも「貧困とは何か」について議論させる(絶対的貧困か相対的貧困か、poverty か deprivation なのか social exclusion か等)
- 2 貧困のモノサシを考えさせる(相対的剥奪指標の項目をリストアップ/選択させる等)
- 3 貧困対策について評価させる(いくつかの対策を取りあげてランキングする等)

といったプランを考えたが、いずれのプランにも難があり、また講義内容が膨らんでしまったことから、「貧困対策をなるべくたくさん考えてみる」という比較的単純な活動に落ち着いた。

## ○スライド1 [タイトルなし]

乃木坂 46 の橋本奈々未の写真である。

『いきなりこのスライドです』

生徒から、笑いと「誰だ誰だ」「かわいい」などの声が出る。

『これは誰?』

と、知っていそうな生徒に尋ねる。

「橋本奈々未さん」

『そう。乃木坂 46 の橋本奈々未。2月に乃木坂 46 を卒業すると発表しました。この人の卒業発表後に、ある TV 番組でこういうやりとりがあったんです』

なぜ乃木坂 46 に入ろうと?

— 本当にお金だったんですよ。めっちゃ貧乏だったんですよ。水道止まるガス止まるみたいな。私は1人目だから（親も）色々してくれたけど……弟にまで回る余裕があるのかと思った時に……

それである程度メドがついた訳?

— 弟も大学行けて、学費免除になったんですよ。……母親から「無理しないで好きなことをもうしてください」「私も私で生活できるから」という手紙も来て……

（「乃木坂工事中」より）

『この人 23 歳ぐらいですけど、5つ下に弟がいるんですね。弟が学費免除にならなかつたら、あと4年間は（乃木坂を）続けていたかもしれないのにと、邪悪な気持ちももちましたけれど、まあ、めでたいですよ。』

『でも、皆が橋本のようにアイドルになれるわけじゃないし、橋本のようなお姉さんを持つわけじゃないですよ。』

## ○スライド2 [タイトルなし]

この法律は、( ) の将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある ( ) が健やかに育成される環境を整備するとともに、教育の機会均等を図るため、( ) の貧困対策に関し、基本理念を定め、国等の責務を明らかにし、及び ( ) の貧困対策の基本となる事項を定めることにより、( ) の貧困対策を総合的に推進することを目的とする。

『3年前にこういう法律が制定されました。( ) に何が入るか分かりますか?』

「子ども」

『その通り。他のクラスで「弟」と答えた人がいた（生徒笑う）。前のスライドに引きずられすぎ』

## 子どもの貧困対策の推進に関する法律 第1条(2013)

『ということで、今日の授業のお題は「子どもの貧困を考える」です』

### ○スライド3 [子どもの貧困を考える]

#### なぜ子どもに注目するのか

『なぜ（他の貧困でなく）「子どもの貧困」なのかを最初に話します』

「子どもは親を選べない」

『はいはい、そうですね』

#### 子どもは親を選べない

『子どもの貧困について「親が悪い」「家庭の問題だ」と言う人がいますけれど、そう言われても、子どもは「じゃあ今日から別の親を選びます」というわけにはいきませんよね。

「親が悪い」って言っても「子どもの貧困」は解決しないんですよ。

#### 「自助努力」も難しい

『もうひとつ。（貧しいのが）大人だったら「あなたが怠けてたんでしょ」と、言えるかもしれないけれど、子どもにそう言うのは無理ですよ』

#### 理不尽！

『つまり「子どもの貧困」は、どんな正当化もできないんですよ』

#### 「機会の平等」という理念（日本国憲法第14条）

『人生の出発点で不公平があるということは、前期にやった（日本国）憲法とのからみで言うと、これはあきらかに「機会の平等」に反します』

「希望格差」（とつぶやいた生徒がいた）

『あ、よく知っていますね。人生に対する希望すらも差が出てしまうという話がある』

#### 見えにくい・声を上げにくい

『あともうひとつ、「子どもの貧困」はすごく見えにくいんです。なぜかっていうと、子どもは、自分が貧しいとはなかなか言えないし、選挙権もないしね。

ということで、「子どもの貧困」を考えていきます』

### ○スライド4 [貧困とは?]

『では、そもそも貧困とはどういうものか。貧困の概念ですね』

1 絶対的貧困 「飢え死にするかどうか」

例：国際貧困ライン：1日 1.90 ドル（世界銀行(2015)）

『これには大きく2つ考え方があります。

まずは絶対的貧困。これは生き物としての貧困です。生物として生きていけるかどうかというギリギリのライン。これ（絶対的貧困の水準）にも議論があるけれど、世界銀行が去年出したのが1日 1.9 ドル。これを下回ると生存が危機に陥ると言う……\*9

『これ（絶対的貧困）はイメージしやすいと思うんですけど、日本では、絶対的貧困の人は、あまりいないですよ』

2 相対的貧困 「みじめな思いをせず社会参加できるか」

『じゃあ、それでいいのかというとそうではないでしょう。

人間は社会で生きているわけですから、社会の中で普通に暮らしていけるというラインはあるだろうと。それを下回るのはどうなのかなと。

例えば、皆さんが中学校3年生だとして、クラスのほとんどの人が高校に行く。日本ではそうですね、今、高校進学率は100%近いから。そこで、うちは貧しいので高校行かず働いてくれという話になったら、飢え死にはしないけど、それはつらいですよ。

具体的なもので言うと、電話がないと今の日本で暮らすのはかなり難しいでしょう。あるいは、例えば親戚が亡くなった時に、普通、香典を持っていくでしょう？ 社会的なしきたりとして。それが、香典を出すお金がないから葬式に行けないということになると、その社会で生きていくのが難しくなるでしょう。

そういうことを、こういう（「みじめな思いをせず」という）形で表現しています。英語だと *decent life* とか *life with dignity* とか *without shame* とか言います。

今回考えるのは相対的貧困 → 先進国における標準的なモノサシだから

『それで、今回は相対的貧困で考えていきます。というのは、日本はまがりなりにも先進

\*9 授業では、ここで生徒から「日本だと1日 1.9 ドルじゃ暮らせない」という趣旨の発言があったので『なるほど、日本だと厳しいかもしれない。そういう（国による違いという）問題もあるとは思いますが』と答えたが、授業の本筋には関わらないのでそのまま先に進めた。

国で、先進国で貧困を考えるときには、普通、相対的貧困で考えるからです』<sup>\*10\*11</sup>

#### ○スライド5 [貧困のモノサシ 相対的貧困率]

##### 計算方法

- 1 世帯ごとの可処分所得を算出する。  
可処分所得：収入から税金・社会保険料等を除き公的年金等を加えた、いわゆる手取り収入
- 2 世帯人数の平方根で割り、その所得を世帯構成員それぞれの所得とする。
- 3 2 の所得の中央値をとる。
- 4 3 の所得中央値の 50 % を貧困線とする。
- 5 貧困線以下の人数の全体に対する比率を算出する。

#### ○スライド6 [例えば (簡単なモデルを使って、相対的貧困率を計算している)]

『それでは、相対的貧困を測るときのモノサシ、尺度の話をして。お金で測るわけですからスライド5の1～5の意味を説明し、さらにスライド6で具体的な数値でシミュレートしてみせる。

授業では、スライド5が出てすぐ、2や4に関わってであろう

「(世帯収入を) なんで平方根で割るの」「平方根で割る? 二分の一じゃないの?」

というようなつぶやきが聞こえてきたので『順に説明させてね』と言って1から話す。

2について

『同じ所得でも、1人家族と3人家族では(生活水準が)違ってくるので、そこをどうするか。3で割ると割過ぎなのはなんで?』

「3人でも1人でも家は1ついる」

『うん、例えば家賃とか光熱費とかは人数に比例して増えないでしょう』

というようなやりとりをする。

なお、中央値については数学で学んでいるし「政経」でも復習している。また、「世帯人数の平方根で割る」方式以外にも世帯人数による補正のしかたがあることや、「中央値の50%」についても、60%とする方式もあることに触れる。

\*10 (子どもの) 貧困の授業では、生徒から「日本には(絶対的) 貧困はない」「日本の子どもは、餓死するわけじゃないし最貧国の子どもより恵まれている(から、問題ではない)」という意見が出ることもある。それゆえ、貧困とは何か、あるいは、なぜ相対的貧困が問題なのかは論点になりうるところだが、この授業ではそこは問題にせず、「相対的貧困について論じる」と、ここで枠組みを制約したわけである。

\*11 ここで、「現代文」の授業で「南の貧困/北の貧困」(見田宗介『現代社会の理論』岩波書店所収)を読んでいるという話題になった。後に出る英語の授業も含め、他教科・他科目での学びとの関連は重要だと考えるが、この記録ではそれに関するやり取りは省略した。



## ○スライド7 [現代日本の子どもの貧困の現状 (2013年調査)]

貧困線	(1人世帯の場合) 122万円	(4人世帯の場合) 244万円
相対的貧困率 (全体)	16.1%	
相対的貧困率 (子ども)	16.3% (約6人に1人)	

『現実の話にいきましょう。2013年(日本の貧困線は)1人だと122万円。4人だと、これの2倍、ルート4倍になりますから244万円。4人家族で月に20万円ぐらい。

『このラインを下回る人の割合がどのくらいか?』

「8%」「15%」

(データを示すと)「意外と多い」というつぶやきが出る。

『子どもはどうか。16%っていうのは6人に1人です。例えば、中学校で40人のクラスだったら7人ぐらい。』

『でも、(統計)数字は単独では多いとか少ないとか言えないですよね』

「他の国で……」「フィンランドとかと比べてみたい」「最貧国なら」「スウェーデンとか」

『比べないといけないよね』

## ○スライド8 [OECDによる国際比較 (2010)]

相対的貧困率	OECD加盟国34か国の平均 11.3	
第1位(最も低い)	チェコ 5.8	第34位(最も高い) イスラエル 20.9
日本	16.0	で 第29位
子どもの貧困率	OECD加盟34か国の平均 13.3	
第1位	デンマーク 3.7	第34位 イスラエル 28.5
日本	15.7	で 第25位

『OECDというのは、世界200か国ぐらいあるうちの、割に裕福な国の集まりです。北アメリカや西ヨーロッパが中心です。アジアでは日本と韓国が入っているかな。今は35ヶ国ですが、この調査の時は34か国。』

『日本は何位くらいだと思いますか? 貧困率が一番低いのが1位です。』

「25位くらい?」「かなり低いかな」「28位?」

『いいセンですね。』

「これって、前にプリントで配られましたよね。日本は先進国だけど子どもの貧困率が高いとか」「あ、E先生の授業(英語)だ」

『E先生に口止めしておけば良かったな。ここで意外性を呼ぶっていうのが、今日のシナリオだったんだけど、全然意外じゃなくなっちゃった。』

『子どもでは1位はデンマーク。もう意外性はないかもしれないけれど、(日本の順位は)あまり自慢になる数字ではないですよ』

「さっきの(貧困率の)数値と違う」

『よく気づきましたね。ひとつは(調査した)年次が違う。あと、計測のしかたもちょっと違うかもしれない』

### ○スライド9 [時系列での変化]

2つのグラフがあり、いずれも1985年以降3年ごとのデータをとった時系列の折れ線グラフ。「子どもの貧困率」のグラフには「全体」と「子どもの貧困率」の2本が、「子どもがいる現役世帯の貧困率」のグラフには、「子どもがいる現役世帯(全体)」「大人が1人」「大人が2人以上」の3本が描かれている。

『今度は時系列で見ます。』

左のグラフをまず見てください。大人を含む全体の相対的貧困率も、子どもの貧困率もじわじわ増えていることが分かりますね。

注目してほしいのは1985年から1990年ぐらいのところ。この頃の日本って、どういう時期?』

「バブルですか」

『日本がバブルに浮かれていた時期ですね。その時期にも貧困率は上がってるんですよ。』

貧困について「貧困の問題は、景気がよくなれば自然に解消する」と言う人がいます。でも、このデータを見る限り、そこは疑問符がつきますよね。景気と貧困は関係ないかもしれない。

『次は右のグラフ。「大人1人」というグラフがあるけれど、これは?』

「シングル・マザー」

『母子家庭・父子家庭の貧困率は50%を超えている。ひとり親家庭の2軒に1軒は貧困線を下回っているのが日本の現実。もちろん確率的な問題ですよ。けれど、貧困に陥るリスクが高いのが、ひとつはひとり親家庭(の子ども)』

日本の(母子家庭の)母親の8割以上は働いているんですよ(「それはそうだよ」という声が聞こえてくる)。働いているんだけど、それでも貧困線を下回っちゃう』

「ダブル・ワーク、トリプル・ワークでめっちゃ働いてもそれだ(生活が厳しい)というような話を読んだことがある」

### ○スライド10 [支援を要する緊急度の高い子ども]

ひとり親家庭の子ども	生活保護世帯の子ども	児童養護施設の子ども
------------	------------	------------

『子どもの中にも厳しい状態に置かれやすい子どもとそうでない子どもがいる。』

ひとり親家庭の子ども。それから、生活保護を受けている世帯は、世帯自体が貧しいの  
ですから、その世帯の子どもはもちろん貧困リスクが高い。

児童養護施設は分かりますか？ 例えば、親が亡くなったり病気で（子どもの）面倒が  
みられないというようなときに（子どもが）入る施設です。そういう施設で暮らす子ども  
も貧困リスクが高い』

#### ○スライド 11 [子どもの貧困の様々な様相]

先述した通り、このスライドについては

『こんなふうに、最近は新聞でも子どもの貧困が取りあげられています』

と簡単にコメントするだけで、個々の記事については触れなかった。

#### ○スライド 12 [貧困の複合性・重層性と貧困の連鎖]

『相対的貧困率はお金で測るんですけど、貧困にはいろいろな姿があるということを話し  
たいと思います』

経済的困難 低賃金・不安定就労

『もちろん（貧困の）中心は経済的困難です。親が低賃金の職場で働かざるを得ないとか、  
パートやアルバイトのような不安定な働き方だったりといったことがある』

不十分な衣食住

『それが、食べるもの、着る服、住む場所が十分じゃないということに直結する』

不健康・発達遅れ

『健康にも関係する。偏った食事しかとれない、そもそも食事の回数が少ないということ  
があると、栄養が乏しくなりますよね』

「ジャンクフードばかり食べているとか…」

『そうそう。あと、病院になかなか行けなかったりする。お金の問題もあるし、さっき出  
たように親がダブル・ワーク、トリプル・ワークしていたら子どもを病院に連れて行く時  
間がないですから。それで、ついつい家で薬を飲ませて済ませようとして悪化させてしま  
ったりということが起こり得る』

孤立・排除

『子どもも親も、社会で生きていくと「つきあい」というものがあるじゃない。ママ友か  
らお茶に誘われてもコーヒー代が出せなければ、そこは「ゴメン」という話になるでしょ  
う。皆さんだってそうでしょう。そうすると社会から孤立したいたりする』

虐待・ネグレクト

『親が忙しくて子どもの面倒を見る暇がないとか、(貧困ゆえの) ストレスがたまってくれば子どもにあたるっていうことで、虐待やネグレクトを生む可能性が出てくる』

不安感・不信感・無力感

低い自己評価

『これは主観的な面ですけれど、そういう状態の中で、子どもは、将来への不安であるとか、大人や社会に対する不信感を持つとか。こわいのは、諦めてしまうこと。さっき「希望格差」っていう話が出ましたけれど「自分の先行きなんてこんなもんだ」と思ってしまったりする。また、それと連動して自分のことを低く見積もってしまう。「自分は何もできない人間なんだ」とか。そういうことも関連してくる』

文化的資源の不足

「家に本がない…」

『そうそう。家に本が無いとか、稽古事に通えないとか。あと旅行も。親が(生活に追われて)忙しいと、遊園地に連れて行ってもらうとか動物園に連れて行ってもらうとかができないとか』

低学力・低学歴

『そもそも、自分の人生なんて多寡がしれていると思えば勉強する気にならないだろうし、家が狭ければ、勉強しようと思っても、まわりで弟や妹が騒いだりして勉強できなかったりするかもしれない。塾に通うお金の問題もある。進学しないで働いてくれと親から言われたりということもあるし、親に言われなくても、家が貧しければさっさと働きたいと自分で思うこともある。

そういうものが重なれば(貧困状況にある子どもたちの)進学率は下がるでしょう』

就業の難しさ → 若者の貧困 → おとなの貧困 → 次世代の子どもの貧困

『でも、今の日本で中卒や高校中退で働くのはなかなか大変です。少なくとも正社員にはなりにくい。不安定・低賃金の就労ということになる。そうすると20代、30代、さらにおとなになっても貧困から抜け出せず、その人たちの子どもがまた貧困にさらされる。

これを「貧困の連鎖」と呼びます。「貧困の連鎖」についてはいろいろな国で議論されてきたし、日本でも問題になりつつあります』

「これ(貧困の連鎖)って、入ることはできても、出ることはできないって感じですか? 一方通行?」

『いや、まさにそれをこの授業の最後に考えてもらいます。貧困の連鎖からどのように出ていくか/出していくかが課題になります』

## ○スライド13 [子どもの貧困による社会的損失]

『ちょっと話を変えます。

子どもの貧困は、もちろんその子どもにとっては重要なことです。けれど、それだけじゃないという話。社会全体の問題だという話です。考え方は簡単です』

**【考え方】**

相対的貧困に陥っている子どもの現状を放置

- 低い進学率・非正社員や無業者の増加
- 所得や税金・社会保険料収入が減少 治安の悪化
- 本人だけでなく、社会全体にとって損失

『いま、子どもの貧困を放置しておくとうなるか。その子どもたちの進学率が下がって、不安定な働き方や、仕事につけない人が増えてくる。そうすると…』

「その人たちが社会福祉を使いますよね」

「うん、まずは、その人たちの所得が減る。でも、みんなが働いたお金が税金として集められて、それでこの社会は成り立っているわけですよね。年金とか健康保険もそう。そういうもの（の収入）が減っていく。逆に、いま声が出ましたけれど、出ていくお金は増えますよね。失業保険とか生活保護とか（の支出）も増える。

日本ではまだ、貧困の問題が治安の問題と関連づけて論じられていないけれど、アメリカなどではかなり議論しています。貧困から抜け出せない人たちが、残念なことに犯罪に走る（ことがある）。そうすると刑務所のコストがかかるし、警察官は増やさなければならぬ、社会的コストが増えるということです。

そうすると、それ（貧困）は、個々の人の人権としても問題だけれど、社会全体の経済にとってもマイナスでしょう』

相対的貧困に陥っている子どもの現状を**放置** **改善**

- 低い進学率・非正社員や無業者の**増加** **減少**
- 所得や税金・社会保険料収入が**減少** **増加** 治安の**悪化** **安定**
- 本人だけでなく、社会全体にとって**損失** **有益**

『だから、そこをこう変えていくといいかなと、考えてみてください』

『それじゃあ、どのくらい、こういう（子どもの貧困による社会的）損失があるのかを推計した研究が最近出たので、それを紹介します』

○スライド 14 [子どもの貧困がもたらす社会的損失の推計 1 対象]

**【推計の対象とする「貧困状態にある子ども」】**

- 生活保護世帯の子ども（15歳） 約2.2万人
- 児童養護施設の子どもの子ども（同上） 約2千人

●ひとり親世帯の子ども（同上）	約 15.5 万人
計	約 18 万人
同世代の子どもの総数	約 120 万人

○スライド 15 [子どもの貧困がもたらす社会的損失の推計 2 改善シナリオ]

- 高校進学率・中退率が、非貧困世帯並みになったとしたら
- 大学等進学率が、一定幅（22%）上昇したとしたら

○スライド 16 [子どもの貧困がもたらす社会的損失の推計 3 結果]

		効果
学歴	中卒	2.4 万人減少
	大卒	2.7 万人増加
就業形態	正社員	9 千人増加
	無業者	4 千人減少
推計対象の子ども 1 人あたり	生涯所得	1600 万円増加
	純財政収入	600 万円増加
推計対象の 子ども全体	生涯所得	2.9 兆円増加
	純財政所得	1.1 億円増加

○スライド 17 [子どもの貧困がもたらす社会的損失の推計 3 結果]

0～15歳の子ども全員を対象に同じ推計を行うと	
1年あたりの所得の増加額	約 1 兆円
1年あたりの財政収入の増加額	約 3500 億円
cf. 日本の GDP	約 500 兆円
国家予算（一般会計）	約 100 兆円
日本財団子どもの貧困対策チーム『徹底調査 子供の貧困が日本を滅ぼす』文藝春秋	

スライド 14～17 を用いて、日本財団子どもの貧困対策チームによるシミュレーションを紹介する。その中で、この種の推計の手法についての疑問が出されたので『こういう推計は、たしかに仮定を重ねて推計するのでどこまであたるかは難しいけれど、まったくデータなしに議論するよりはいいわけです』と話す。

○スライド 18 [ここまでのまとめ]

- 「子どもの貧困」という問題が日本にはある。
- 「子どもの貧困」は、当事者の子どもにとっても、日本社会全体にとっても解決す

べき問題である。

ではどうすればよいのか？

ここまでのまとめをする。<sup>\*12</sup>

### ○スライド19 [子どもの貧困対策を考える]

#### 1 どこが（主体）

国 地方公共団体 企業 NPO など

#### 2 誰に（対象）

貧困の状況にある子どもに

貧困の状況にある世帯に

貧困率の高い地域／学校に

すべての子ども／世帯に

選別主義 川下対策 （治療）

普遍主義 川上対策 （予防）

#### 3 どうする

現金の給付・貸与（お金）

現物の給付（物品・サービス）

負担の軽減

『まずは「どこが」そういう対策をとるか。』

次に「誰に」。皆さんは「貧困の状況にある子どもや家庭に決まっているでしょ」と思うかもしれませんが。もちろんピンポイントで貧困の状況にある子どもや一家を選びだして対応をとることもできますが…』

「いやあ、それはちょっとキツイな」

『なんでキツイかは、あとで考えてもらいたいと思います。』

もうちょっと（対象を）広げて考えることもできます。例えば、高校中退でいうと、定時制高校、夜間の高校なら昼間働きながら通える。ということは、貧しくて昼間働かざるを得ない子どもが高校に行くとする、定時制高校に行く可能性が高いわけです。そうしたら、定時制高校に特に手厚く、中退を防ぐような対応をとるといようなことが可能

\*12 ここでは、これまでの説明を要約すると同時に、その後の授業の枠組みを規定している。

つまり、ディベートの論題風に言えば、「子どもの貧困」について

- ① 事実に関する論題（「子どもの貧困」は存在するのか／どの程度のものなのか）
- ② 価値に関する論題（「子どもの貧困」は解決すべきなのか／どこまで許容してよいのか）
- ③ 政策に関する論題（「子どもの貧困」を解決するためにはどうしたらよいか）

の3つがあり得るが、スライド18で私は、上の①・②については議論しないということを、生徒にいわば「宣言」したのである。

です。それは個々の生徒に対応するのとは少し違う。

アメリカなどでは、貧しい人と貧しくない人が住む場所がはっきり分かれていたりするでしょう。そうすると「この地域だけ」というやり方が可能です。

『これらは基本的に、貧困の状況に陥ってしまった人を選びだして対応するので選別主義的な政策と呼びます。あと、貧困が生じたあとの対策なので川下対策と呼びます。病気という治療にあたる。

『でも、病気でもそうですけど、予防っていう考え方があります。あらかじめ、全部に対して、こういう（貧困の）状態にならないようにするにはどうしたらいいか。そういう方を普遍主義と言ったり、貧困が生じる前に行うので川上対策と言ったりします。

『「どうする」か。お金を支給する、あるいは貸す。あと、教育や医療であれば、お金を介さずにサービスを提供する。そういうのを現物給付と言います。逆に、貧しい子どもや家庭に対する負担を軽減するというやり方もあります。

ようやくこれで講義は終わりです』

## ○スライド 20 [ということで、演習です!]

- |  |
|--|
| <p>1 なるべくたくさんの「子どもの貧困対策」を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>★貧困の複合性・重層性に注目する。</li><li>★具体的な案を出す。</li><li>★評価（優れた案か否か）は後回しにする。</li></ul> <p>2 時間は 15 分。<sup>*13</sup></p> |
|--|

ワークシート<sup>\*14</sup>を配る。裏面には、スライド 12 [貧困の複合性・重層性と貧困の連鎖]が印刷してある。

『これから、どうすれば子どもを貧困から抜け出させられるかを考えてもらいます。

『ヒントを 3 つ出します。

1 つ目はさっき見てもらった通りに、貧困には色々な側面があるということに注目してください。

2 つ目。他のクラスでこの演習をしたら、話が大きくなってしまって「社会主義にすればいい」というような案が出ましたが、そういうのは今日のコンセプトにはそぐわないの

---

\*13 講義が延びた結果、10分程度しか時間がとれなかった。講義の部分も端折ったり、かなり早口で説明したりしているので、2コマの授業に再編成することも含めて検討していきたい。

\*14 資料 3



で、もう少し具体的な案にしてください。<sup>\*15</sup>

3つ目。その案が可能かどうかとか、良い案なのかどうかとかは後回しにして、とにかくたくさんアイデアを出してください。

つまり、貧困の状況に置かれた子どもや家庭がどういう困難にぶつかるかを想像してみてください。「こういうことが起こりそうだな、じゃあこうしていけばいいかな」というように。

『10分で10個ぐらい考えてください』

「個人ですか。班でやるんですか」<sup>\*16</sup>

『隣同士や前後の人と話をしてもらって構いません』

演習が始まってしばらくして追加的なヒントを出す。

『考えあぐねている人のために1つだけ例を出します。小さな子どものいるシングル・マザーがいたとする。働きに出たい。でも子どもがいると働きに出られない。昼間よりも夜の方が時給は高いから、夜働きたいと思うかもしれない。そうすると夜に託児所があるといいのになあと思っている人もいるわけでしょう。そうしたら、市町村が夜間に子どもを預かるサービスを提供するという対策が考えられる』

10分後、1列指名して、対策案を発表してもらおう。<sup>\*17</sup>

「国やパチンコ店とかが、生活保護世帯の親にパチンコとかギャンブルをさせないようにする」<sup>\*18</sup>

『生活保護のお金を（生活費でなく）そういうことに使うことを抑制するということね』

「ジャンクフードを高くして、その分、野菜とかの値段を安くして、貧困世帯でも健康な食事ができるようにする」

『ジャンクフードを高くする』

「国とかNPOが無料の学習塾を開いて勉強を教える」

「あいりん地区でやってる」

『みんなの回りにもあるんじゃないですかね。そういうところでボランティアしている卒

---

\*15 ここでも、あくまで資本主義社会の中での、いわば社会工学的な解決を求めるという点で、生徒の思考を限定している。

\*16 公開授業に先立ち、同じ演習を個人で行うクラスと、数名ずつのグループで行うクラスをつくって様子を見ている。クラスの雰囲気にもよるが、グループワークだと個別の対策について議論が始まってしまふことが多く、対策を量産するという点では個人での作業の方が効率的な様子だった。

\*17 資料4にこの演習で出た主だった対策案をまとめてある。

\*18 この対策案の背景には「生活保護受給者がパチンコなんかしてけしからん」という「濫給批判」があることが想像される。

業生がいますよ』

「地域でもっとちゃんとコミュニティをつくって、生活の手助けとかお互いにできるようにする」

『コミュニティをつくる』

「国が貧困に関する啓蒙活動を行って人々に知ってもらおう」

『そもそも貧困があるんだということを。こういう授業をしょっちゅうすればいいですね』

「(貧困で) 子育てができない家庭の子どもや赤ちゃんを(養護施設でなく) 一般家庭で預かったりする」

『里親制度ですね』

「企業が、貧しい人に対しては高賃金にしたり、優先的に雇ったりする」

「クオータ制で何パーセント雇わなければいけないとか」

『前期に、障害者雇用の(法定雇用率の) 話は教育実習生がしましたね』

#### ○スライド 21 [さまざまな貧困対策]

別のクラスの生徒のワークシートである。公開授業では何人か指名して答えてもらったので飛ばした。

#### ○スライド 22 [貧困対策の実施と検証]

『いっぱい対策案が出ましたが全部やるわけにはいかない。じゃあそれをどう考えていくかですね』

##### 目標と実施計画

例：対策全体の効果で、相対的貧困率を5年間で10%以下にする。

全定時制高校にカウンセラーを配置することで定時制高校の中退率を5年間で20%減らす。

『まず、こういうこと(社会政策)を考えるときには目標を立てた方がいい。政策と、期間を切って目標値を設定する。勉強だってそうでしょう。闇雲に勉強しているわけじゃないでしょう。「〇〇大学に入ろう」とか目標を立てて「そのためには数学の偏差値をあと3上げなくちゃいけない」とかやっているでしょう。それと同じです』

予期せざる(マイナスの)効果 例：選別主義 → ねたみ意識とスティグマ(烙印)

『あと、注意してほしいのは、こういう社会的な政策では副作用が出る場合があります。それは、多分さっき出た「キツイ」という発言に関係するのだけど。

個別に貧しい子どもや家庭に対して対策をとるのに、選別主義になぜ違和感があるの?』

「本人も、自分はそう(貧困対策の対象)なんだなと思ったり…」

『個別に貧しい状況の人たちを支える選別主義では（対象にならなかった人から）「なんであいつはお金もらってんだよ」というようなねたみが生じることがある』

「(東日本大震災の)被災者へのいじめの話だ」

『スティグマというのは、「あいつは生活保護を受けている奴だ」とか言われて、差別的に使われてしまうことがある、そういうことです。

#### 効果と費用

貧困が「深い」層と「浅い」層の違いを考慮する。<sup>\*19</sup>

費用あたりの効果が大きい対策を探す。

『もうひとつは、政策を選ぶときには、費用あたりの効果が大きい方がいいわけですよ。そうじゃないといくらお金があっても足りないから』

### 〇スライド 23 [費用と財源 「子ども手当」を例に]

子ども 1 人につき月額 1 万円を支給すると……

子どもの人口 (0 歳～ 15 歳) : 17,414 千人 (平成 26 年 10 月 1 日)

→  $1 \text{ 万円} \times 12 \text{ ヶ月} \times 17414000 \text{ 人} \div 10000 = 2.1 \text{ 兆円}$

『例えば「子ども手当」を考える。子どもに月 1 万円を一律に支給するとする。必要なお金はすぐ計算できます。約 2.1 兆円です。

財源として消費税の税率を 1 % 上げると……

税率 6.3 % で税収 17.2 兆円 (平成 28 年度一般会計予算) だから

→  $17.2 \text{ 兆円} \div 6.3 = 2.7 \text{ 兆円}$

『この財源が民主党政権は出なかったわけだ。でも、消費税の 8 % から 10 % への税率引き上げはされなかったけれど、消費税が 1 % 引き上げられると日本の税収って 2.7 兆円増えるって試算されているんですよ。

『だから、消費税の議論をする時には、それを何に使うの、10 % にしたら何に使うのというところから考えていかないと。むやみに「負担が増える」とかそういうことだけではどうかと。

3 人世帯 (母 + 子ども 2 人)

所得 200 万円 (貧困線を下回る) → すべて消費すると…

子ども手当 + 24 万円

\*19 時間切れで話せなかったが、貧困線ぎりぎりの子どもや家庭と、より深刻な子どもや家庭が存在する場合、深刻度の高い子どもや家庭を優先的に施策対象にするという考え方には一定の妥当性があるだろうという話をするつもりだった。

消費税	- 2 万円
差引	+ 22 万円
→ 所得	222 万円 (貧困線を上回る)

『(この政策が採用されれば) 例えば、子ども 2 人の 3 人世帯だったら、年に 24 万円受けとって、消費税増税分は負担も増えるけれど差引 22 万円のプラスになるわけじゃないですか。

『こういうふうに(社会的な問題を考えていく時には) 具体的な数字を出して議論していくことも重要だと思います。皆さんのなかには、そういうこと(政策立案)に関わっていく人も出てくるでしょうから、そんな話をしてみました』

## V 生徒の感想

今回、公開授業直後には生徒からのコメントは求めなかったのですが、同じ授業をした他クラスの『授業ノート』の感想からいくつか抜粋する。

- ★日本の貧困率は先進国の中では高い方であるというデータにはおどろいた。自分の周りだけしか見ていないと気づかない問題がたくさんあることがよくわかった。
- ★この学校にいと、裕福な家庭が多く、相対的貧困な状態にある子どもがいるということにあまり実感がなく、そのような子どもたちがいるということを忘れがちになります。
- ★日本のテレビ番組でもよく貧困に苦しむ子供や家庭を取り上げた内容が放送されるが、どれもバラエティ要素が多く含まれ……このようなマスコミの影響もあり、日本の貧困がどれ位深刻なのかを知らない人も多いのではないかと……
- ★まず日本の貧困の特徴として“見えにくい”というのがあると思います。……「貧困=衣食住がやっとの極貧生活」というイメージが広くあり、相対的な貧困は貧困として認識されにくいのではないかと感じました。
- ★教育を受けたい人が皆教育を受けられるようにしなければならないだろう。そうなれば、優秀な人がより多く発掘され、社会も発展することになるのではないと思う。
- ★……実際に貧困の対策を考えようとしても、現状を大きく変えるような対策は見つからず、貧困の原因や貧困によって生じる問題 1 つ 1 つを改善していかないと貧困の対策にはならないと思いました。
- ★最も印象に残ったことは、「貧困」は個人の問題であるが個人だけの問題でなく社会全体の損失にも影響する重大な問題であるということ。私たちは、他人事だと思わず、関心を持ち対策を考えていく必要があると思った。
- ★「子どもの貧困」というテーマでしたが、必ずしも貧困家庭だけの問題ではないというのをひしひしと感じました。対策を考える時も、貧困家庭にお金を回す分どこかを削らなければいけないので……。

★子供の養育費の上昇は、出生率の低下にもつながっているので、子どもの貧困を防ぎ、社会全体が次世代への投資を行うことで、日本の人口問題が少しでも改善されるとよいかなと思います。

## VI 使わなかったスライドから

授業づくりをするとき、私は、資料を収集するのと並行して、使わないかもしれない教材についても、どんどんワークシートなりスライドなりの形にしてしまう。そして、授業の全体像が見えてきたかなと思った段階で、授業時間の制約や、授業の流れを考えながら、それらを取捨選択し、並べ替えて授業をつくっていく。料理で、野菜や肉を買ってきて何種類もオードブルやスープやメインディッシュをつくりおいておき、最後にそれをコースとして再構成する感じである。

今回の「子どもの貧困」の授業でも、つくったが使わなかったスライドがある。授業に  
しなかつた部分を知っていただくことで、何の授業をしたかがより浮かびあがってくるのではないかと考え、以下にそれらのスライドを簡単に紹介していく。<sup>\*20</sup>

### ○スライド 24 [社会問題・社会政策を考える]

この授業の目標は、授業中生徒に提示した通り

- 1 日本の「子どもの貧困」について知る
- 2 「子どもの貧困」対策を考える

の2つなのだが、私は、もうひとつ、「子どもの貧困」という具体的事例を通じて

- 3 社会政策の考え方を知る

という目標をたて

- (1) 問題の認識→実態の把握→原因の分析→政策の立案→政策の実施・検証 という筋道
- (2) 定量的に考えること

の2つを示したいと考えていた。

そこで、目標3のまとめとしてつくったみたのがこのスライドである。振り返ると、授業の最後が尻すぼみに終わっていて、このスライドを使った方が良かったかとも思うが、そうすると授業の焦点が「子どもの貧困」でなく「社会政策」に拡散してしまったかとも思う。迷うところである。

### ○スライド 25 [貧困のモノサシ 相対的剥奪指数]

### ○スライド 26 [相対的剥奪指標の項目の例]

### ○スライド 27 [相対的剥奪指標と所得の関係]

---

\*20 資料5

授業では、相対的貧困のモノサシとして可処分所得に基づく相対的貧困率のみを用いたが、相対的剥奪の概念もまた、貧困研究や貧困対策でよく登場する。時間があれば、こちらについても紹介し、さらに相対的剥奪指標と所得の関係にまで言及したかった。

○スライド 28 [貧困のモノサシ 相対的所得ギャップ]

○スライド 29 [ユニセフによる国際比較 (2016)]

同様に、「貧困の広がり」を示す相対的貧困率とともに「貧困の深さ」を示す相対的所得ギャップの話もできるとよかった。さらに言えば「貧困のモノサシとしての相対的貧困率・相対的剥奪指標・相対的所得ギャップを比較検討する」という授業も考えてはいた。

○スライド 30 [効果の推計 回帰分析の考え方]

「費用対効果」について話すところで、「効果」をどのように推計するか、比較的よく用いられる回帰分析について簡単にでも紹介できればと考えていた。

○スライド 31 [米での貧困対策『実験』結果]

○スライド 32 [アメリカのヘッド・スタート]

○スライド 33 [(セサミ・ストリートのキャラクターの写真)]

貧困対策について、アメリカでは多くの「実験」により有効性が報告されていること、とりわけ、乳幼児に対するプログラム（就学前教育）は効果が大きいとされること、それに関連してヘッド・スタート（計画）があること、よく知られている「セサミ・ストリート」はヘッド・スタートの流れを汲む番組であることを紹介することがあればとつくったスライドである。

○スライド 34 [奨学金で大学に行くと…]

○スライド 35 [国際人権規約の『留保』の撤回]

高校3年生（の子のいる家庭）にとって大学の受験料・入学金・授業料の負担は大きい。また、子どもの貧困対策として奨学金のあり方はしばしば話題になる。そこで、奨学金についてもスライドをつくりかけた。

## Ⅶ 参考文献

朝日新聞取材班『子どもと貧困』朝日新聞出版(2016)

阿部彩「日本における相対的剥奪指標と貧困の実証研究」

国立社会保障・人口問題研究所(2005)

阿部彩『子どもの貧困』岩波書店(2008)

阿部彩「非金銭的な貧困指標」(ナショナルミニマム研究会第2回資料)  
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/12/dl/s1216-12d.pdf> (2009)

阿部彩『子どもの貧困 II』岩波書店(2014)

池上彰編『日本の大課題 子どもの貧困：社会的養護の現場から考える』筑摩書房(2015)

埋橋孝文／矢野裕俊『子どもの貧困／不利／困難を考える I』ミネルヴァ書房(2015)

大阪府立西成高等学校『反貧困学習 格差の連鎖を断つために』解放出版社(2009)

大山典宏『生活保護 vs 子どもの貧困』PHP 研究所(2013)

国立国会図書館

「諸外国における大学の授業料と奨学金(調査と情報—ISSUE BRIEF 第869号)」(2015)

子どもの貧困対策会議「すべての子どもの安心と希望の実現プロジェクト」(2015)

子どもの貧困対策の推進に関する法律

子供の貧困対策に関する大綱

子どもの貧困白書編集委員会編『子どもの貧困白書』明石書店(2009)

資生堂社会福祉事業財団『世界の児童と母性』VOL.79(2015)

柴田悠『子育て支援が日本を救う』勁草書房(2016)

田村裕『ホームレス中学生』幻冬舎(2011)

戸室健作「資料紹介 都道府県別の貧困率、ワーキングプア率、子どもの貧困率、補足率の検討」(『山形大学人文学部研究年報』第13号(2016) pp.33-53)

内閣府『平成28年版 子供・若者白書』(2016)

中室牧子『「学力」の経済学』ディスカヴァー・トゥエンティワン(2015)

「なくそう！ 子どもの貧困」全国ネットワーク編『大震災と子どもの貧困白書』かもがわ出版(2012)

日本子どもを守る会編『子ども白書 2016』本の泉社(2016)

日本財団子どもの貧困対策チーム『徹底調査 子供の貧困が日本を滅ぼす』文藝春秋(2016)

貧困研究会編『貧困研究 vol.1』明石書店(2008)

ヘックマン, ジェームズ・J『幼児教育の経済学』東洋経済新報社(2015)

山野良一『子どもの最貧国・日本』光文社(2008)

山野良一『子どもに貧困を押しつける国・日本』光文社(2014)

ユニセフ イノチェンティ研究所・阿部彩・竹沢純子

『イノチェンティ レポートカード11 先進国における子どもの幸福度—日本との比較 特別編集版』日本ユニセフ協会(2013)

ユニセフ イノチェンティ研究所『イノチェンティ レポートカード13 子どもたちのための公平性』日本ユニセフ協会(2016)

読売新聞社会部『貧困 子どものSOS』中央公論新社(2016)

リスター, ルース『貧困とはなにか』明石書店(2011)

## 資料一覧

資料1 授業で使った Power Point のスライド

資料2 授業中に生徒がとったメモ

資料3 授業で使ったワークシート

資料4 授業中に生徒が考えた対策案（筆者がまとめたもの）

資料5 授業づくりの段階で作成したが授業では使わなかった Power Point のスライド



資料 1

なぜ乃木坂46に入ろうと？  
 — 本当にお金だったんですよ。めっちゃ貧乏だったんですよ。水道止まるガス止まるみたいなの。私は1人目だから(親も)色々してくれたけど.....弟にまで回る余裕があるのかと思った時に.....

それである程度メドがついた訳？  
 — 弟も大学行けて、学費免除になったんですよ。.....母親から「無理しないで好きなことをもうしてください」「私も私で生活できるから」という手紙も来て.....

(「乃木坂工事中」より)

スライド 1

この法律は、( )の将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある( )が健やかに育成される環境を整備するとともに、教育の機会均等を図るため、( )の貧困対策に関し、基本理念を定め、国等の責務を明らかにし、及び( )の貧困対策の基本となる事項を定めることにより、( )の貧困対策を総合的に推進することを目的とする。

子どもの貧困対策の推進に関する法律 第1条 (2013)

スライド 2

子どもの貧困を考える

なぜ子どもに注目するのか  
 子どもは親を選べない  
 「自助努力」も難しい

**理不尽!**

「機会の平等」という理念  
 (日本国憲法第14条)

見えにくい・声を上げにくい

スライド 3

貧困とは？

1 絶対的貧困  
 「飢え死にするかどうか」  
 例：国際貧困ライン：1日1.90ドル  
 (世界銀行(2015))

2 相対的貧困  
 「みじめな思いをせず社会参加できるか」

↓

今回考えるのは相対的貧困  
 → 先進国における標準的なモノサシだから

スライド 4

貧困のモノサシ 相対的貧困率

計算方法

- 世帯ごとの可処分所得を算出する。  
 可処分所得：収入から税金・社会保険料等を除き公的年金等を加えた、いわゆる手取り収入
- 世帯人数の平方根で割り、その所得を世帯構成員それぞれの所得とする。
- 2の所得の中央値をとる。
- 3の所得中央値の50%を貧困線とする。
- 貧困線以下の人数の全体に対する比率を算出する。

スライド 5

例えば

世帯	世帯人数	世帯の可処分所得	1人あたりの所得
秋元家	4人(A・B・C・D)	1100万円	1100万円 ÷ √4 = 550万円
白石家	3人(E・F・G)	1386万円	1386万円 ÷ √3 = 800万円
西野家	2人(H・I)	424万円	424万円 ÷ √2 = 300万円
松村家	2人(J・K)	283万円	283万円 ÷ √2 = 200万円
桜井家	L	350万円	350万円
若月家	M	250万円	250万円

所得の小さい順に並べると  
 J K < M < H I < L < A B C D < E F G  
 200万円 250万円 300万円 350万円 550万円 800万円  
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

所得の中央値は550万円  
 → 貧困線は275万円 → 相対的貧困率は3/13=23.1%

スライド 6

## 現代日本の子どもの貧困の現状 (2013年調査)

### 貧困線

(1人世帯の場合) **122万円**

(4人世帯の場合) **244万円**

### 相対的貧困率(全体)

**16.1%**

### 相対的貧困率(子ども)

**16.3% (約6人に1人)**

スライド7

## OECDによる国際比較(2010)

### 相対的貧困率

OECD加盟国34か国の平均 11.3

第1位(最も低い)チェコ 5.8

第34位(最も高い)イスラエル 20.9

日本 16.0 で 第29位

### 子どもの貧困率

OECD加盟34か国の平均13.3

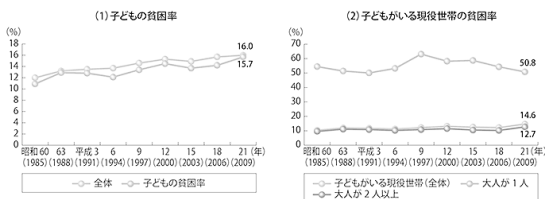
第1位デンマーク3.7 第34位イスラエル28.5

日本 15.7 で 第25位

スライド8

## 時系列での変化

第1-3-38図 相対的貧困率



【出典】厚生労働省「2010年国民生活基礎調査」  
 (注) 1. 相対的貧困率は、世帯ごとの所得を基に算出する。等価可処分所得(世帯の可処分所得を世帯人員の平均数で割って調整した所得)の中核的の中位に落ちない世帯の割合を算出したものを示している。  
 2. 平成6年以降は10歳未満の子どもの貧困率も示している。  
 3. 大人とは18歳以上の者、子どもとは17歳以下の者。現役世帯とは世帯主が18歳以上65歳未満の世帯をいう。  
 4. 等価可処分所得は世帯ごとの所得を指す。

スライド9

## 支援を要する緊急度の高い子ども

- ひとり親家庭の子ども
- 生活保護世帯の子ども
- 児童養護施設の子どもの

スライド10

## 子どもの貧困の様々な様相

「風呂なし」  
いじめ、不登校

救いの場は無料学習塾

自信将来の希望失う  
医大受験「負けたくない」

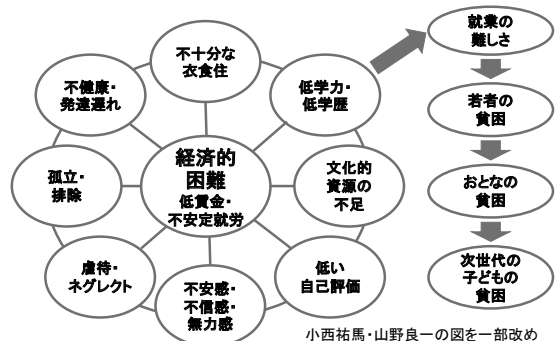
予備校通えず 参考書は「お古」

増える希望者 追いつかぬ支援

2014年8月  
1・2・4日付  
『読売新聞』

スライド11

## 貧困の複合性・重層性と貧困の連鎖



スライド12

## 子どもの貧困による社会的損失

### 【考え方】

相対的貧困に陥っている子どもの現状を改善

↓

低い進学率・非正社員や無業者の増加 減少

↓

所得や税金・社会保険料収入が減少 増加  
治安の悪化 安定

↓

本人だけでなく、社会全体にとって損失 有益

スライド 13

## 子どもの貧困がもたらす 社会的損失の推計 1 対象

### 【推計の対象とする「貧困状態にある子ども」】

- ・生活保護世帯の子ども(15歳) 約 2.2万人
  - ・児童養護施設の子どもの(同上) 約 2千人
  - ・ひとり親世帯の子ども(同上) 約15.5万人
- 計 約 18万人
- 同世代の子どもの総数 約 120万人

スライド 14

## 子どもの貧困がもたらす 社会的損失の推計 2 改善シナリオ

- ・高校進学率・中退率が、非貧困世帯並みになったとしたら
- ・大学等進学率が、一定幅(22%)上昇したとしたら

スライド 15

## 子どもの貧困がもたらす 社会的損失の推計 3 結果

		効果
学歴	中卒	2.4万人減少
	大卒	2.7万人増加
就業形態	正社員	9千人増加
	無業者	4千人減少
推計対象の子ども 1人あたり	生涯所得	1600万円増加
	純財政収入	600万円増加
推計対象の 子ども全体	生涯所得	2.9兆円増加
	純財政所得	1.1億円増加

スライド 16

## 子どもの貧困がもたらす 社会的損失の推計 3 結果

0～15歳の子どもの全員を対象に同じ推計を行うと

1年あたりの所得の増加額 約1兆円  
 1年あたりの財政収入の増加額 約3500億円  
 cf. 日本のGDP 約500兆円  
 国家予算(一般会計) 約100兆円

日本財団子どもの貧困対策チーム  
 『徹底調査 子供の貧困が日本を減ぼす』文藝春秋

スライド 17

## ここまでのまとめ

- ・「子どもの貧困」という問題が日本にはある。
- ・「子どもの貧困」は、当事者の子どもにとっても、日本社会全体にとっても解決すべき問題である。

ではどうすればよいのか？

スライド 18

## 子どもの貧困対策を考える

### 1 どこが(主体)

国 地方公共団体 企業 NPOなど

### 2 誰に(対象)

貧困の状況にある子どもに  
 貧困の状況にある世帯に  
 貧困率の高い地域/学校に  
 すべての子ども/世帯に

選別主義  
 川下対策  
 (治療)  
 普遍主義  
 川上対策  
 (予防)

### 3 どうする

現金の給付・貸与(お金)  
 現物の給付(物品・サービス)  
 負担の軽減

スライド 19

ということで、演習です！

### 1 なるべくたくさんの

「子どもの貧困対策」を考える。

- ★貧困の複合性・重層性に注目する。
- ★具体的な案を出す。
- ★評価(優れた案か否か)は後回しにする。

### 2 時間は15分。

スライド 20

## さまざまな貧困対策

どこが(主体)	誰に(対象)	どうする(対策)
1 国	一人親	お金を支給
2 地方	子供	無料の児童館を設ける経験
3 企業	親の子供	会社内の託児所を設ける
4 国	お金の困窮	高校生の学費を負担(私立を除く)
5 NPOなど	貧困の子供	予防接種の注射を助ける
6 地方	国内	お金の困窮を助ける場を作る
7 企業	貧困の家	お弁当支給制度を設ける
8 企業	貧困の親	在宅ワークの提供
9 国	企業	社会保障の受給に一定水準を設定
10 学校	貧困の子供	塾に通えない子供への補講など
11 国	貧困の家	家具や衣類などを支給
12 地方	子ども支援	保護者の増設→保護児童の低下
13 企業/地方	子育て支援	子育ての支援
14		
15		

スライド 21

## 貧困対策の実施と検証

### ・目標と実施計画

例: 対策全体の効果で、相対的貧困率を5年間で10%以下にする。  
 全定時制高校にカウンセラーを配置すること  
 で定時制高校の中退率を5年間で20%減らす。

### ・予期せざる(マイナスの)効果

例: 選別主義 → ねたみ意識とスティグマ(烙印)

### ・効果と費用

貧困が「深い」層と「浅い」層の違いを考慮する。  
 費用あたりの効果が大きい対策を探す。

スライド 22

## 費用と財源 「子ども手当」を例に

子ども1人につき月額1万円を支給すると.....

子どもの人口(0歳~15歳): 17,414千人(平成26年10月1日)

➡ 1万円 × 12ヶ月 × 17414000人 = 2.1兆円

財源として消費税の税率を1%上げると.....

税率6.3%で税収17.2兆円(平成28年度一般会計予算)だから

➡ 17.2兆円 ÷ 6.3 = 2.7兆円

3人世帯(母+子ども2人)

所得200万円(貧困線を下回る) → すべて消費すると...

子ども手当 +24万円

消費税 -2万円

差引 +22万円

➡ 所得 222万円(貧困線を上回る)

スライド 23

メモ  
(子どもの貧困を考える)

Q. 子どもの貧困に注目するのは  
→ 子どもの親を選べない「自覚努力」が難しい。見えにくい  
「格差の平等」という理念に訴える。 声上げにくい。

- 貧困とは？
1. 絶対的貧困 (収入不足) 1.9 兆円/日
  2. 相対的貧困 「社会の平均」を基準とする

相対的貧困率 貧困のモロサシ

1. 可処分所得 / 世帯
2. 人数の平方根で割る
3. 2の平方根の中央値
4. 中央値の50% → 貧困線

OECD (平均 11.3%)	世界 (平均)
1位 42.2 5.8	34位 12.5 20.9
29位 日本 16.6	

日本	相対的貧困率
9人 122万円	16.1% (全年)
4人 244万円	16.3% (子ども) → 6人に1人

子ども (%)
1位 7.2-9 3.7
34位 12.5 28.5
29位 日本 15.7

← 格差に着目すべきは。

↓ 幸福度のランキングと異なるの！

必要支援の子ども → ひとり親  
生活保護  
児童養護施設

貧困連鎖 不安定な衣食住、不健康、発達遅れ、孤立、排除、虐待、ネグレクト、不安感、不信感、無力感、諦め、低い自己評価、文化的資源不足、低学力、低学歴  
貧困 ← 就業困難

子どもの貧困による社会の損失

前置 → 低進学率、非正規社員増加  
損失推計 15%の貧困児童が他の85%の一般児童と同レベルに進学、就業していきると...  
→ 大学 2.7万人増、中卒 2.9万人減、正社員 9千人増  
→ 1年所得増加額 1兆円、  
財政収入増加額 3500億円

子どもの貧困対策と考える

(どこに) 誰に 国 地方公共団体 海外に 定時制  
貧困の状況にある子ども、世帯、地域、学校へ → 差別主義、IT対策(治療)  
現金給付(お金) 現物給付(サービス)、負担軽減 → 普通「川上」(予防)

演習

目標とたどるべきステップ  
予期せざるメソッドの効果  
ねため意識とメソッド(メソッド) 差別

効果と費用

→ 子ども手当 消費税1%上げると 2.7兆円 増える

氏名 \_\_\_\_\_

メモ

まがりなりにも

コメント

子どもの貧困 { 子どもの親を産むの  
自助努力も重要  
見にくい、声上げにくい }

先生のスライドが面白い分りやすい  
すごい!

絶対的貧困 ... 生物学的に生きていけるだけのリソース  
「飢え死にしたらどうか」 (AID) / 日 < SIDA / ライン → 日本にはあまりないけれど...

相対的貧困 ... 「おれはあんまりせが社会参加できるか」 (ex) 電話が不要  
葬式に行けない...  
先進国におけるモノサシ

どの誰に どの どの改善できるの?  
主体 対象 具体的に!  
差別主義 (上下対策) の問題  
↑  
普遍主義 (上下対策)

日本の貧困率 (世帯) (1人 122万 244万)  
最も低い国 日本 16.1%  
最も高い国 イスラエル 29.9%  
子どもだけ 16.3%

相対的貧困率  
親が1人だけの家庭は  
50%程度で、全体では  
圧倒的に高い!

対策を立てるには目標が重要  
予期せぬマイナス効果が生じる可能性  
↳ 差別主義 → 内生的  
ステータス

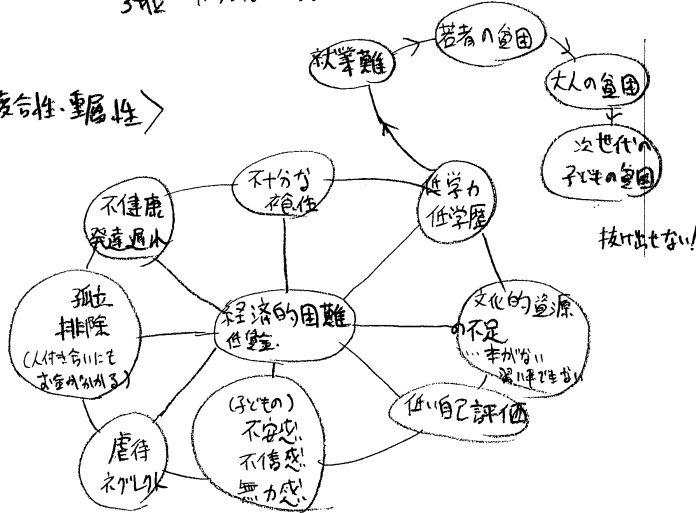
他の国と比較すると...

- OECD 34カ国の平均 11.3 (17カ国が右側)
- 最も低い国 日本 16.1
- 最も高い国 イスラエル 29.9 日本は29位
- 子どもだけ 平均 13.3
- 1位 デンマーク 7.1
- 3位 イスラエル 29.5

1985 ~ 2010 年の上昇 (1970年代と比較して)  
上昇が良ければ貧困は解決できるのでは?

費用対効果  
(ex) 子ども手当  
1人あたり 2.1兆円  
消費税増税 1% で  
税収 2.7兆円  
それ以上全体ではプラス!  
富の再分配のため!

〈貧困の複合性・重層性〉



社会的損失は?  
低い進学率  
非正規社会  
無業者  
治安悪化  
所得・税収  
社会保障料収入の減少  
高齢者が増える

現状は... (推計)  
まだ改善は? → 子ども手当の  
生涯所得 2.9兆 ↑  
純財産所得 ... ↓

まだいいほう、増えたり!!

氏名 \_\_\_\_\_

資料3

筑波大学附属高校 2016 年度「政治・経済」

要提出

子どもの貧困対策リスト

3年 \_\_\_\_\_ 組 \_\_\_\_\_ 番 氏名 \_\_\_\_\_

	どこが(主体)	誰に(対象)	どうする(施策)	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

どこが(主体) : 国 地方公共団体 企業 NPO など

誰に(対象) : 貧困の状況にある子ども 貧困の状況にある保護者 貧困率の高い地域/学校に(選別主義)  
すべての子どもに(普遍主義)

どうする : 現金の給付・貸与(お金) 現物の給付(物品・サービス) 負担の軽減

資料4

筑波大学附属高校 2016 年度「政治・経済」

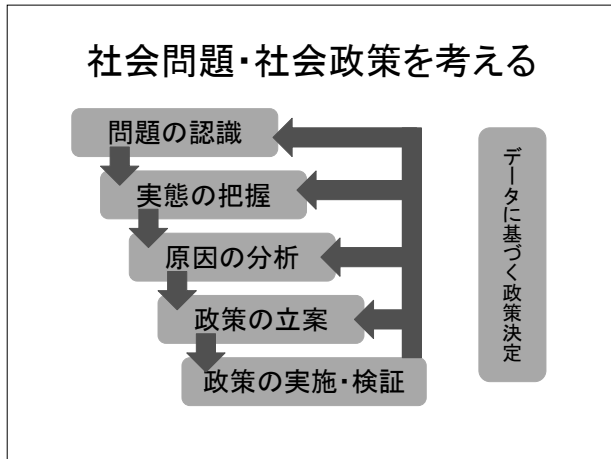
資料

3組の「子どもの貧困対策」リストから

	どこが(主体)	誰に(対象)	どうする(施策)	
1	国	全員	一定額を払う(ベーシックインカム)	
2	コンビニ	貧困な家庭	売れ残った製品を分配	
3	学校		避妊具配布	
4	地方	高貧困率の高校	教材無料支給	
5	国	生活保護世帯	親にパチンコ・競馬などを禁止させる。	
6			子どもを生める親を収入で制限する。	
7		片親家庭	マイナンバー制度を活用して離婚相手から養育費をとる。	
8	国・地方	企業	最低賃金の引き上げ	
9	国	幼稚/保育園児	6歳児までの幼児の教育費タダ	
10			貧困に関する教育を増やす。	
11	国	高所得者	所得税増税	
12	国	企業	貧困の人を雇う制度を作る。	
13	国	子持ち家庭	お父さん・お母さんボックスを届ける。	
14	企業	高貧困率の高校	インターン経験(無償で)	
15	国	シングルマザー	シングルマザー用のマンションを作って協力して暮らす。	
16		養護施設?	施設職員を増やす、職員の収入を引き上げる。	
17	小・中学校	子ども	子どもにやる気の出させる教育をして、自己評価を上げる。	
18	都道府県	大学生	世帯収入に応じて奨学金(返却義務無し)	
19	国	大学生	奨学金利子免除(収入に応じて)	
20	企業	母親	女の人の給料を上げる。	
21	国	子ども	国立大学の完全無償化	
22	NPO	高校生	塾と同等レベルの教育を与える安い施設をつくる。	
23	NPO	皆	(貧困に関する)講演をして知ってもらう。	
24	地方	小学生	定年後の世帯に、子どもをあずかる仕事を募集する。	
25	大学		貧困家庭から積極的に合格させる(orクォータ制導入)。	



資料5



スライド 24

### 貧困のモノサシ 相対的剥奪指数

**相対的貧困率の限界**  
 現時点での所得のみで「貧困」を定義  
 資産や能力や人間関係等は考慮外  
 例: 引退後の高齢者→低所得でも高貯蓄なら高い生活水準

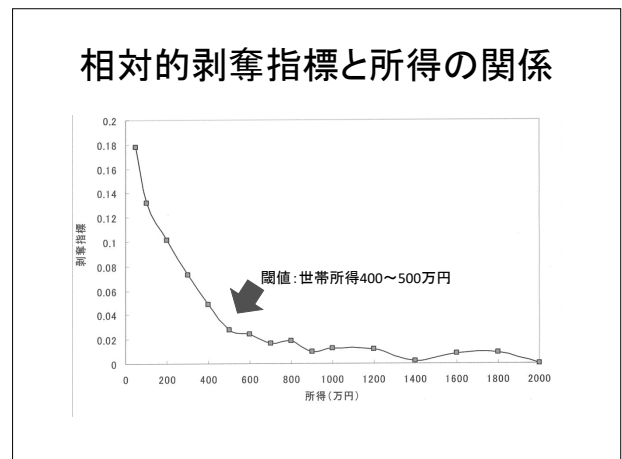
↓

**もうひとつのモノサシ: 相対的剥奪指数**  
 相対的剥奪(Relative Deprivation)とは...  
 社会の中で、持っていて当然と考えられているものを持っていない/できて当然と考えられていることができない状態  
 例: 電話がない。  
 きちんとした服がないので親戚の葬儀に行けない。

スライド 25

- ### 相対的剥奪指標の項目の例
- 設備**
    - 電子レンジ
    - 冷暖房機器(エアコン、ストーブ、こたつ等)
    - 湯沸器(電気温水器等含む)
  - 社会生活**
    - 親戚の冠婚葬祭への出席(祝儀・交通費を含む)
    - 電話機(ファックス兼用含む)
    - 礼服
    - 1年に1回以上新しい下着を買う
  - 保障**
    - 医者にかかる
    - 歯医者にかかる
    - 死亡・障害・病気などに備えるための保険(生命保険、障害保険など)への加入
    - 老後に備えるための年金保険料
    - 毎日少しずつでも貯金ができること
  - 住環境**
    - 家族専用のトイレ
    - 家族専用の炊事場(台所)
    - 家族専用の浴室
    - 寝室と食卓が別の部屋
- (阿部彰「非金銭的な貧困指標」  
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/12/dl/s1216-12d.pdf> より、次も同じ)

スライド 26



スライド 27

### 貧困のモノサシ 相対的所得ギャップ

相対的貧困率: 貧困の広がりを示す。  
 相対的所得ギャップ: 貧困の深さを示す。

**子どもの相対的所得ギャップ**  
 所得階層の下位10%目の子どもの所得が、所得の中央値から何%かけ離れているか。  
 例: 1000人の集団  
 所得の中央値が400万円  
 所得の下から数えて100人目が300万円

↓

相対的所得ギャップ:  $(400 - 300) \div 400 = 25\%$

スライド 28

### ユニセフによる国際比較(2016)

#### 子どもの相対的所得ギャップ

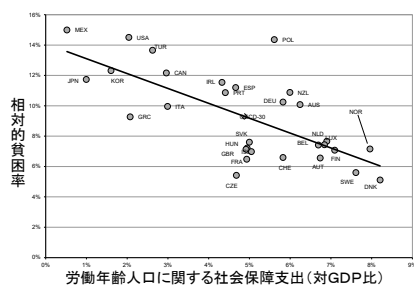
EU又はOECDに加盟する41か国

- 第1位 ノルウェー 37.0%
- 第41位 ルーマニア 67.1%
- 日本 60.2% で 第34位

→ 所得階層で下位10%目の子どもは、中央値の子どもの所得の約4割しか所得がない。

スライド 29

## 効果の推計 回帰分析の考え方



OECD『Growing Unequal? Income Distribution and Poverty in OECD Countries』(2008)

スライド 30

## 米での貧困対策「実験」結果

- 効果(生涯所得の増加額の推計値) ÷ 1人当たりの費用 を比べる
- おおむね、効果 ÷ 費用 > 1 時には数倍～10倍以上の効果
- 乳幼児に対するプログラム(就学前教育)は効果が大きい

スライド 31

## アメリカのヘッド・スタート

- 低所得層の幼児(とその親)に対する、教育・医療・栄養・社会的サービスなどの総合的援助を提供するプログラム
- 1960年代半ばに開始、現在も継続中。



- ヘッド・スタートについては知らなくても、それと関わって生み出されたこれは知っているのでは？

スライド 32



スライド 33

## 奨学金で大学に行くと...

希望する奨学金	第二種奨学金	学種	大学(学部)
貸与月額	120,000円	貸与期間	48ヶ月
入学時特別増額	500,000円	機関保証制度	利用する
保証料月額(初回)		保証料月額(通常)	保証料総額
33,325円		6,450円	336,475円
貸与総額		貸与利率	返還総額
6,260,000円		—	8,436,847円
内訳	5,760,000円	3.0%(基本月額)	
	500,000円	3.2%(入学時増額分)	
月賦返還額	返還回数(年)	返還期間	
35,152円	240回(20年)	2021年10月～2041年9月	

日本学生支援機構HPより

スライド 34

## 国際人権規約の「留保」の撤回

日本国政府は.....同規約第13条2(b)及び(c)の規定の適用に当たり、これらの規定にいう「特に、無償教育の漸進的な導入により」に拘束されない権利を留保していたところ、**同留保を撤回する旨を平成24年9月11日に国際連合事務総長に通告しました。**

※下の赤字が、今回「留保を撤回」した部分。

第13条2(b) 種々の形態の**中等教育**(技術的及び職業的中等教育を含む。)は、すべての適当な方法により、特に、**無償教育の漸進的な導入により**、一般的に利用可能であり、かつ、すべての者に対して機会が与えられるものとする。

(c) **高等教育**は、すべての適当な方法により、特に、**無償教育の漸進的な導入により**、能力に応じ、すべての者に対して均等に機会が与えられるものとする。

スライド 35